

## 環境首都札幌推進協議会第2回会議【議事概要】

日時：平成21年6月9日(火) 10:00～12:00

場所：札幌市役所本庁舎 6階 北会議室

次第

- 1 開会
- 2 札幌市挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議題
  - (1) 平成21年度活動計画等について
  - (2) 各委員の取組状況について
  - (3) 札幌市の事業概要について
  - (4) (仮称)札幌市環境プラザ事業検討部会の設置について
- 5 その他
- 6 閉会

---

### 1 開会

- ・宮佐環境計画課長より開会宣言
- ・委員18名中、15名の出席を確認
- ・資料の確認
- ・本日の予定の確認

### 2 札幌市挨拶

- ・宮田環境都市推進部長より挨拶

### 3 委員紹介

本日の会議から参加された4委員による自己紹介

大野委員

イオン北海道のCS・社会貢献部の部長をしております大野と申します。

昨年の2月まではジャスコ札幌元町店の店長をしておりました。去年3月、会社に環境・社会貢献部という部門が新設されまして、そこの部長に着任しました。そして、今年の3月に、お客様サービスと品質管理の任務が加わりまして、CS・社会貢献部という名称になりました。

菊池委員

商店街連合会の菊池でございます。

私自身は、狸小路商店街で楽器屋をやっておりますが、商店街連合会といたしましては、昨年、エコメンバーに加入し上田市長と一緒に頑張りましょうということでやっております。まず各商店街で、BDFに再利用する油を集めるという活動を始め、そのほかいろいろな活動をしております。地域住民には一番近いところで商売させていただいておりますので、これからも環境に配慮した地域になくはない商店街を目指してまいりますので、

よろしくお願いたします。

新保委員

ひまわりの種の会の新保留美子と申します。

自然エネルギーの中で太陽光発電を中心とした普及啓発活動をしておりますが、大通公園のイルミネーションを太陽光発電とグリーン電力証書でともすという活動とか、円山動物園に市民の太陽光発電所を設置するという、あと、環境教育として、参加者が大統領になって環境と経済のバランスをとりながら二酸化炭素を削減するガバチョというゲームをオリジナルに開発しましたし、去年は札幌ドームのふわふわアドベンチャーイベントに参加をして、お子さんたちに体験いただいたりしています。

照井委員

札幌ハイヤー協会の照井と申します。

タクシー事業は、グリーン経営とか、今度は運転手とか管理者を集めて、コースを借り切ってエコドライブの訓練をやるかということで動いています。去年の原油価格の高騰で、通常使っているLPGは、ガソリンの半分から3分の1の費用で済んだのですが、燃費効率が非常に悪いのです。6キロぐらいなのです。ですから、逆に言うと、プリウスあたりだと3倍以上走れますので、今、実験的にハイブリッドカーの導入をしているのですが、タクシーは1台当たり年間10万キロ以上走りますので、プリウスが果たしてタクシーとして5年ぐらい乗れるかどうかとも実験しながら進めております。

#### 4 議題

##### (1) 平成21年度活動計画等について

西岡計画係長より、資料2を用いて、環境首都札幌推進協議会の目的等及び平成21年度の活動計画(案)について説明し、了承を得た。

##### (2) 各委員の取組状況について

井出委員

私は、ススキノで、鮎処いちいというすし屋を経営しております。

ススキノから毎日大量に出る使い終わった割りばしを何とかリサイクルできないかということで、本当に個人的な活動なのですが、声かけをして頑張っております。

今日お渡しした手書きのチラシですけれども、地球に恩がえしというイラストをかいています。あとはインターネットで間伐材とか割りばしとかで検索をくださった方に、私のブログにつながるようにしてしまして、このページにも行きつくようになっています。子どもにもわかりやすいように、こういうイラスト入りで、わかりやすい言葉を選んで書いています。

一般の人は、木を切るイコール割りばしイコール環境破壊というふうに強く思われてしまっているので、北海道産の間伐材を使えばそういうことにはならないよということを、自分が学んだ分も広く皆さんにお伝えしたいと思ってブログで情報発信をしております。

今までやってきた活動に関しては、ブロガーさんを集めて、割りばしをリサイクルしてくれる江別市の王子特殊紙まで行ってきました。割りばしが1膳でA4のコピー用紙4枚になるのです。どういうふうに紙になるのかというのを、ブロガーさんにも記事を書いてもらって、いろいろな人に伝えていきます。

間伐材で割りばしをつくっている企業は北海道に2社しかなくて、留辺蘂と下川町ですが、下川町に実際に泊まりで行き、間伐されていない真っ暗な森林を実際に自分の目で見てきました。

今、私の周りで個人的にやり出した人もいます。それ以外ではすし屋3軒、居酒屋2軒、割烹が1軒という程度ですが、地味にそういう活動をしていて、ススキノ全体で割りばしが集められる日が来ないかなと思って頑張っております。

今後ですが、今日いらしている環境サポートセンターの松本委員の発案で、今、ススキノ、北海道の店舗20店舗ぐらいに間伐材の割りばしを使っていただいて、それを大々的にやってみようという試みを松本委員とやっています。それが通るかどうかわかりませんが、まだ申請中ですが、そういうこともやっております。

小林会長

今お聞きのような仕組みづくり、社会全体でこういうふうにしていこう、認識を改めようということを熱心にやっておられるんですね。

太田副会長

1ページ目に「洗わずに」と書いてあるのですが、これには何か理由があるのですか。

井出委員

洗うと、水を大量に使うのです。コピー用紙にかえるまでの2次的な資源をすごく使ってしまうので、洗う必要はないということです。

久保田委員

国産の割りばしと中国産の割りばしを比べた場合、どこがどういうふうに悪いのですか。

井出委員

中国産の方が、輸入してきても、ものすごく安いのです。今はちょっと値上がりしたのですが、1膳につき1円、2円の世界なのです。間伐材は、まとめて5,000膳、1万膳頼むと4円ぐらいで手に入るのですが、その2円、3円の差で、おそば屋さんとかラーメン屋さんは単価が低いので使えないということになるのです。

ただ、一つマジックといいますか、私たちのようなススキノの店舗では、置くスペースがないので、割りばしとか容器などを扱う業者さんに保管してもらって、例えば1週間に100膳ぐらいずつ持ってきてもらうのです。その保管料が実はかかっている、それを含めると、中国産は1膳につき4円ぐらいになっているのです。ですから、結局、よく考えたら中国産も同程度の費用になるのです。ただ、皆さん、そこまでも確かめていないという現状です。

小林会長

何がエコか、環境に優しいとは何かということですね。皆さん事実をしっかりと知り合う必要があると思いますので、今後ともよろしくお願いします。

井下委員

e z o r o c kのミッションは、50年後も人が夢を持って生きていける環境の創造ということで、今、200人ぐらいの会員がいて、活動しているメンバーは、青年層、20代から30代の人々が主に活動している団体です。

私はe z o r o c kの中のビジョン2050プロジェクトチームのボランティアリーダー

ーをしており、この活動について皆さんに紹介させていただこうと思います。

ビジョン2050プロジェクトチームはezorockのミッションを達成するためには何が重要かと考えて、長期的な視野を持って本質を見極める力を持った学生がふえればこのミッションが達成されるのではないかと思っ、この二つの視点を大事にしています。

行政とか企業では、エコ活動とかいろいろな取組が進んでいるのですけれども、私たち学生とか私の友達とか周りの人を見ている、そういう取組に取り残されているというか、気持ちがついていけないというか、何のためにやるのかというところまで考えられないような感じがしていて、私はそこに問題意識を持っていました。

本当に大切なことは何だろうとか、本質を見極めて自分たちで活動していかなければいけないと思っています。さらに、短期的な利益を優先するのではなくて、50年後を創っていく世代がちゃんと50年後を意識して行動することはこれから重要だと考えています。その二つの力をつけるために、このチームは一つのプログラムをつくって、それを各地に広める活動を行っていかうという取組をしています。

5月31日にセミナーを開催しました。参加者数は14名で、大学生が主でした。開催の目的は、エコ、エコ言っている社会ってどうなの？というキャッチコピーをつけたチラシを配って、それで集まった人たちで話し合ったのですが、日常感じている環境の取組に対する疑問をプログラムを通して参加者同士で話し合うことで、身の回りのことに対して自分の意見を持って行動するきっかけにしようという目的でやりました。

今、いろいろなエコな活動に対して違和感を持っているという人が、半分よりちょっと上で、何となく違うなというふうに感じている人がほとんどという現状でした。

それを踏まえて、みんなでエコって何だろうと考えて、本当のエコと本当じゃないエコを考えました。本当じゃないエコというのは、本来の目的とずれているとか、循環ができていなくて無駄が出ているとか、ちゃんと先が見えていないとか、つくられる過程の環境負荷を考慮に入れずにエコだと言っているとか、そういう意見が出ました。

本当のエコというのは、環境に配慮した目的がちゃんとあって、その目的がちゃんと果たされている。例えば、マイはしがはやって格好いいなと思っ、持つのは、結果的にはエコだけれども、それは本当のエコではないのではないかという話をしました。あとは、無駄がなかったり、効果とか影響とか過程がちゃんと見えると、表面的ではなくて、ちゃんと仕組みを理解した上でその活動ができているかというのが本当のエコではないかというふうになりました。

小林会長

ezorockは、いろいろなことをしています。石狩浜でのイベントには、多くの学生が集結して、ごみの分別とか、イベントのために使われるエネルギーについてみんな考えるなど、次の世代に訴えかける仕事をしておられたと思っています。

この紹介事例では示唆に富む意見が交わされていますね。若者がどんなふうにいるか、特にエコを標榜した商品に懐疑心を持っている若者が多数おり、今、そのことを井下委員が説明してくださいました。井下さんはこの中では一番お若く、次の時代の環境を自分の問題として真剣に考えておられる世代なので、貴重なご意見でした。

大野委員

イオン北海道の環境社会貢献の取組のうちの環境活動に焦点を絞ってお話ししたいと思

います。

イオン北海道は、イオングループとして昨年の3月に、イオン温暖化防止宣言をいたしました。この内容は、イオンは2012年までにCO<sub>2</sub>排出量を185万トン削減しますということです。イオン北海道は、その中で6万4千トンのCO<sub>2</sub>を削減していこうと決めております。

取組は四つございまして、一つ目は店舗での設備、仕組みによる削減、二つ目が商品物流における削減、三つ目がお客様とともに取り組む削減、四つ目が京都メカニズム活用ということです。特に、1、2、3は、グループ企業の社長とか専務がトップになって、また細かい分科会を設けて頻繁に会議を開いて、その取組を具体的にしております。その進捗管理もその会議でしております。

去年の7月3日に、北海道ではイオン苫小牧ショッピングセンターが北海道初のエコストアとしてリニューアルオープンしております。省エネ技術を導入しなかった場合に比べてCO<sub>2</sub>の排出量は21%削減可能になるという想定でございます。

ところが、実際に測ってみますと、それよりもかなり多く25%ぐらいは削減ができておりました。この店は、売り上げよりも環境に焦点を絞って、何億円というお金を使って改装したお店でございます。ですから、当然、ハードが中心になったわけでございます。蛍光灯の数を減らしても室内の明るさを変えないようにするため、壁をぶち抜いて自然光を取り入れたショッピングセンターにするとか、とにかく考えられることをいろいろしたのですけれども、一番の問題はハードよりもソフトだったなど。要は、みんな電気を消すようになったのです。それが、こういうような結果になったのだと今は思っております。

それから、2番目の取り組みは、商品物流の取組です。とにかく地産地消を一生懸命して商品を輸送する際に出るCO<sub>2</sub>を少なくしていこうという取組をしております。

それから、物流の取組でございますけれども、関東から北海道に商品を運ぶ場合に、最初は飛行機で運んでおりました。店が増えるにつれてトラックに変わったわけですが、去年からトラックからJRのコンテナ輸送に変更しております。これによってCO<sub>2</sub>が90%削減できております。

三つ目の取組は、お客様とともに取り組む削減でございますけれども、そのうちの一つは植樹の取組でございます。イオンの植樹の取組に関しては二つあるのですけれども、一つは、イオンふるさとの森づくりと言いまして、自分の敷地の中で駐車場の周りに木を植えていくというものです。もう一つは北海道支笏湖植樹祭ということで、要は自分の敷地外でやる植樹です。これは、イオン環境財団の主催でやっているわけですが、そちらの植樹が6月14日、1万本を植樹予定です。こういう植樹活動は、実は横浜国立大学の宮脇先生にご指導いただいておりますので、支笏湖でしたら支笏湖に昔から生えていた木の苗木を混植ということで樹種をまぜて植えていく方法をとっております。ですから、一見、汚い植え方でございます。けれども、育ちますと森が再生できるということで、この植え方をずっと続けております。

二つ目は、レジ袋削減の取組でございます。北海道では、去年、全店30店舗のレジ袋無料配布の中止をしております。これは、お客様、消費者協会、NPO団体、あるいは行政と小売業の3社が連携して協定を結んでおります。札幌は9月3日に結ばせてもらったのですけれども、このことによって、今、辞退率が87.2%ということで、10人のう

ちの約9人はマイバッグを持参するという形になっております。

それから、京都メカニズム活用でございますけれども、こちらの方はカーボンオフセット付きのマイバスケットの発売ということで、今年の4月から始めたわけでございます。排出権を買い取ろうということでございます。

太田副会長

特に、私を感じたのは、一つは、地産地消の問題はよく言われていますけれども、北海道としては本当に大事なことで、実際にやれることなので、非常に素晴らしいと思います。

それから、その次の物流も、90%削減されたということで、素晴らしいと思います。

小林会長

今の物流に関しては、鈴木委員も非常に苦心されていますね。今、トラック業界も物流における省エネを真剣に考えていますし、今はJRから今度は船にシフトとか、知らないところで実に進んでいます。特に、日本では物流の9割くらいがトラックで、それがCOのもとになるわけです。鈴木委員、何かコメントはございますか。

鈴木委員

逆にちょっとお伺いしたかったのは、貨物列車にかえたことで、コスト的にはどんな感じなのか。

大野委員

実は、物流に関しては、イオングループの別会社の方で一生懸命やっているのです。やはり、コスト等を考えるといろいろあるようです。

松本委員

苫小牧のエコストア化のお話の中で、省エネ技術を導入しなかった場合に比べて21%削減という話の中で、技術も大切だけれども、ソフトの部分が一番大切だったという話がありました。従業員の方が電気を消したりというお話だったのですが、従業員の方がそういう行動を起こすというきっかけになった何か奇策はあったのですか。

大野委員

店長とか副店長、要はそのお店のトップの意識が大きく影響するのだと思うのです。同じように発信していても取組が違うのです。まず、そこなのだと思うのです。

小林会長

札幌のことではないけれども、市役所などの建物でも全体の意識で5%、7%はすぐに減るそうです。だから、いつも電灯をつけっ放しというくせによる無駄が、その程度はあったからなのでしょう。節電をもっと進めるには、松本委員が言われたように、あめ玉をつけなければならないとか、行動を変えるために何か秘策がいるのだらうと思います。

久保田委員

資料はA3の1枚で、縦長のK氏の地球を守るためのプロジェクト・札幌行動の取組状況という資料ですが、K氏というのは私のことを言っております。今、私が札幌行動との対比においてどの程度実践できているのかを自己評価した資料です。項目は1章から7章まで26項目すべてさっぽろエコ市民26の誓いの項目です。それに対して、真ん中は私がどの程度取り組んでいるのかという内容です。

第1章の取組の具体的内容の真ん中の欄です。私のところは、家庭菜園をやっておりま

して、敷地が60坪ぐらいで、建て坪は半分、残り30坪程度を家庭菜園と家庭果樹園のような形にしております。家庭果樹園にすると、いつでも新鮮な果物がとれるし、CO<sub>2</sub>の吸収にもいいのではないかと、食べればCO<sub>2</sub>が減るという話です。

その段の右側に、これを行っている間に何か不思議だなと気がついたことを書いています。

引き続き、第3章に移ります。

私は、家を建ててもう20年たつのですけれども、20年前から家の電灯を全部1カ所でつけたり消したりすることができるようにしています。これは、2路スイッチを3路回路に全部取りかえることによってすぐにできるのですけれども、建てる時ならそんなに費用はかかりません。

さらに、6章のところ、5月に駒岡の清掃工場を見学に参りました。見学の目的は、多分、今後話題とされるだろうサーマルリサイクルの現状を聞き取りにいったということです。清掃工場では、今でも焼却のための熱が利用されています。ただ、昔の考え方は、減量化するために焼却する、焼却すると熱が出るのでやむを得ずどこかに利用しなければならないという考え方です。一方、私の考えるサーマルリサイクルというのは、もっと積極的な意味で、熱を利用するためにごみを燃やすのだという考え方に改める必要があるのではないかと、そこから何かヒントが出てくるのではないかとということで調査に行ったわけです。

最後の7章のところの一番右側ですけれども、私感というふうに書いてあります。いろいろな取組を行っているのですけれども、積極的、もっとやっているぞという意味でのインセンティブがなかなか働かないということで、先ほども申し上げましたとおり、こういう行動を続けていくというためには、腑に落ちる、理解するということが必要です。そのことがよくわかっている、なぜやらなければならないのかということがわかっているということと、張り合いが出るという、この二つがないとなかなか進んでいかないと思います。

小林会長

市民公募でこの協議会に加わっていただいた久保田委員ならではの個人の実践に基づいたご意見をいろいろちょうだいしました。

サーマルリサイクルというのは、物質としてリサイクルするのが望ましいけれども、それができない場合には燃やして熱を回収するという言葉です。駒岡清掃工場には、清掃工場の看板と発電所の看板と二つついています。発電燃料としてもごみを使い、発電し終わった熱で融雪をしたり、給湯をしたり、近くの老人施設のおふる、真駒内団地の暖房まで熱を運ぶという熱利用をしているわけです。それを、さらに、むしろ発電燃料としてごみを使うという発想に切りかえるべきだというご提案だと思います。物質としてリサイクルするにはかえってコストがかかり過ぎるとか、いろいろ厄介なものについては一々分けなくていいと、一緒に出してもらって全部燃やして熱を回収するのも有力な考え方です。今のご提案はいろいろなところで生きています。

自分はこういうことを実践してこうだったという自己点検評価を人にさらすのはなかなか厄介ですけれども、あえてご紹介くださいました。それから、理解する、張り合いが出るということというのは行動を継続させる上で非常に大事だと思いますし、その仕組みづくりが大事ではないかという重要なご指摘をいただいたと思います。

佐々木委員

このところ、省エネ、エコ、CO 対策という言葉がマスコミ等でよく耳にし、政府も車とか家電にエコポイントなる補助制度を図っているようです。確かに、新製品は省エネ、エコ、CO 節減に力を入れており、機能的にはすぐれていると思います。しかしながら、一般的には新製品に取りかえるという時期に来ないと、すぐにはお金を出してそのような措置はできないと思います。

そこでまず、我が家というか、隣近所でやっていること、家族内でこれからも継続してずっとやっていこうねということ、二、三、紹介したいと思います。

一般的に今は自宅のお風呂に入る人が多いのですが、例えば我が家は4人ですが、沸かす日には、なるべく続けて入り、燃料や水の節減をしています。そして、冷蔵庫の位置についても、置く場所を考えながら、時にはフィルターの整備とか物の整理、これは食品を詰め過ぎると温度低下に結びつきますので、置く場所も直射日光を避けるとか、ガスコンロの近くには置かないとか、特にこれから夏場にかけて扉の開け閉めの回数を減らすようになるべく心がけたいと思います。

うちの家内がやっているのですが、冷蔵庫にレシートを張り、中にある賞味期限に近いものを赤のペンでちょっと書いておいて、使った物は線を引いて消していくと。そうすると、二重買いにもならないし、意外と便利なのです。これも、うちの妻がやっているのですが、洗濯物をまとめて洗います。

それから、歯を磨くときに、3分間、水を出しっ放しにすると、約10リットルの水が必要だそうです。家族が多い分だけ、歯を磨くと1人分が4倍になりますから、その分だけむだになるので、出しっ放しにしないで、とめてコップに受けてから使うということはだれでもできると思うのです。

その他、最近、缶とかペットボトルの飲み物が多いと思うのですが、我が家ではお茶とか麦茶を冷蔵庫に冷やしまして、それを飲んでいきます。

その他、特に最近、若い人の間では「もったいない」という言葉がだんだん薄れてきたような感じがするのです。それらを大事にしながら、皆さんと一緒にエコ、節減に取り組んでいければなと思っております。

小林会長

札幌市は100万近い世帯で成り立っているのです、それぞれのご家庭が少しずつでも心がけたら、全体でどうなるかを想像しながら聞かせていただきました。

昨年6月25日に札幌市民は「環境首都・札幌」宣言をしたわけですが、その後1年たちまして、今年の6月25日に1周年のセレモニーをいたします。

その中で、さっぽろ環境賞の第1回表彰式が行われます。これは、地球温暖化対策部門、循環型社会形成部門、環境保全・環境創造の三つの部門に分けて市民に公募をしましたところ、71の団体から環境賞候補の推薦がありました。それで、各部門に市長賞1、優秀賞2という形で9件、さらに特別賞が4つ、計13の団体に対して表彰式が行われます。

この表彰式を含むセレモニーが6月25日にサンプラザホールでありますので、大勢、お誘い合わせていらしていただきたいと思っております。

いろいろな方がいろいろな取組をなさっているので、お互い、ああそうか、知らなかったけど、こんなに皆やっているのだというふうになるのがいいなと思っております。



(3) 札幌市の事業概要について

西岡計画係長より、資料3を用いて、札幌市環境局環境都市推進部の主な事業について説明した。

このうち、菅原推進係長よりさっぽろエコ市民運動について説明した。(資料5参照)

(4) (仮称)札幌市環境プラザ事業検討部会の設置について

高田環境教育担当係長等より、資料4を用いて、(仮称)札幌市環境プラザ事業検討部会の設置について提案した。委員の選任については、会長並びに副会長及び事務局に一任させていただきたいという提案も併せて行い、了承を得た。

5 その他

宮佐環境計画課長より、「環境首都・札幌」宣言メモリアルの開催について説明した。

6 閉会